

2022年5月12日 記者会見 質疑応答（埼玉）

発表内容：2022年3月期決算について

日 時：2022年5月12日（木）17時00分～17時45分

場 所：埼玉りそな銀行 埼玉研修センター

発 表 者：埼玉りそな銀行 代表取締役社長 福岡 聡

埼玉りそな銀行 代表取締役副社長兼執行役員 寺畑 貴史

りそなホールディングス 執行役 グループ戦略部長 岩館 伸樹

【質疑応答】

Q 1. 2021年度決算の評価について。

A 1. 業績目標に到達できなかった点については真摯に受け止めています。業績下振れの要因は債券の劣化懸念に先手を打ったものであり、足元の市場環境を踏まえれば、正しい判断であったと認識しています。お客さまのこまりごと解決件数は19,000件を超え、フィー収益は過去最高を更新するなど、こまりごとを起点とした収益構造改革は着実に進展していると評価しています。

Q 2. 今後の県内経済の見通しについて。

A 2. 少子高齢化等の構造的な問題に加え、コロナ感染症の長期化は県内経済の下振れ要因と認識しています。また、足元のロシア・ウクライナ情勢や中国におけるロックダウン、円安進行等による資源高騰等を受け、コストプッシュ型のインフレが懸念されます。県内経済はゆるやかな回復基調との見方が多いですが、当社としては一定のストレス下でもお客さまをしっかりと支えるべく健全性を重視しています。県内経済の活性化に向けて資金繰り支援に加え、DXやSX等の事業構造転換やサプライチェーンの再構築の支援についてもピッチを上げて対応していきます。

Q 3. ゼロゼロ融資先の返済状況とお客さまの経営状況について。

A 3. 当社は当初よりコロナ出口を見据えた経営改善支援や本業支援を進めてきました。これまで融資先約7,000先に対し、約1800億円の融資を実行しました。そのうち、約半数の先では返済を開始していますが、条件変更を行った先は約2%程度と低水準です。引き続き不透明な経済環境が予想されるため、資金繰り支援に加え、事業構造転換も含めた経営改善支援についてもピッチを上げて対応していきます。

Q 4. 創業支援の取り組みについて。

A 4. ベンチャー企業と従来型の企業とのマッチングにより、双方のシナジーを追求していきます。また、ファイナンス型からエクイティ型のサポートへのシフトを図る他、外部コンサルの活用や人材紹介等に注力していきます。起業家同士で悩みが共有できる場の提供など、心理的なサポートの仕組みも検討を進めていきたいと考えています。

Q 5. 今年度のフィー収益の見通しとフィービジネスにおける他社との差別化について。

A 5. フィー収益の計数は開示していませんが、前期を上回る水準を計画しています。当社は、国内で数少ない信託併営の商業銀行であることから、信託機能を活かし、他社との差別化につなげていきます。加えて、当社の県内ネットワークを活かすとともに、グループ機能を活かしたDX支援など、変化するお客さまのこまりごとに伴走し、お客さまのサポートを深化させていきます。

Q 6. 今年度利益目標（225億円）が中計目標（250億円）を下回る要因について。

A 6. コロナを前提としていなかったことが、乖離の主因です。債券健全化に伴い、ポートフォリオの再構築が必要であり、この点は今年度の下振れ要因となります。コロナ長期化や足元の市場環境も収益に影響があります、与信費用に対しては先手を打ってリスクをコントロールしてきました。今後は本業支援や経営改善支援、創業支援等を通じて収益の積上げを図っていくとともに、外部との連携強化やラボたまとのシナジーの早期発揮が、中計 250 億円の実現に向けたポイントになると考えています。

Q 7. フィー収益比率の今後の見通しについて。

A 7. 2022年3月期は27%と強めに出ていますが、これはフィー収益比率の分母である業務粗利益が健全化により低かったことが一因です。フィー収益比率については、巡航速度の業務粗利益を前提に25%を目指すとともに、25%を通過点として、さらに上の水準を目指していきます。

以上